

11/5 (木) 日頃の感謝を込めて

片岡駅西口のロータリーで、片岡中学校の生徒会とボランティア委員会の19人により、ピオラ約200苗が花壇に植えられました。また13日(金)には、矢板中学校の生徒会と緑化委員会からプランターが寄贈され、生涯学習館の玄関先に飾られました。これらの活動は日頃お世話になっている関係先に感謝の気持ちを伝えるため、両校とも委員会活動の一環として行われたものです。生徒たちは「寒さが増す中で、きれいに咲いた花を見て心が温まってもらえたらうれしい」と話していました。



▲ピオラの苗を植える片岡中の生徒
▲矢板中の生徒からプランターの寄贈を受ける村上教育長。市のほか、郵便局、高齢者施設にも寄贈されました。

11/16 (月) 街なかのオアシスに

市商工会館のエントランスホールで「市盆栽教室モダンさつき秋季展」が行われました。このホールは、街なかの活性化や交流の場を目的に、会員のほか市民がさまざまな活動に利用できるスペースとして設置されています。今回は同教室の生徒が手のひらサイズに育てた56点の力作を展示し、訪れた人たちに小さな安らぎを与えていました。商工会担当者は「多くの人にホールを活用してもらいたい。憩いの場として気軽に足を運んでほしい」と話していました。



▲同教室の講師で県卓月会理事を務める見形 昭正さん(右)は、「作品を見てもらう場所ができ、更に創作意欲が湧いてきた。花が咲くころにまた展示会を開きたい」と話していました。

11/18 (水) 安全安心な地域のために

県警本部長・県防犯協会長から自主防犯活動の功労表彰を受賞した「木幡東行政区青色パトロール隊」が市長を表敬訪問しました。パトロール隊は、青色回転灯を装備した車両に乗り地域内を巡回するほか、児童生徒の登下校時の見守りや声かけを行う取り組みが評価され今回の受賞となりました。高瀬隊長は「児童生徒とあいさつを交わすと私たちが自然と笑顔になり、元気がもらえる。私たちのような活動が市内各地に広がってもらえたら」と話してくれました。



▲(左から) 高田 進区長 高瀬 泰一隊長 齋藤市長 横塚副市長

11/19 (木) 来季は矢板で試合を!

本県に本拠地を置く独立リーグのプロ野球チーム「栃木ゴールデンブレーブス」の寺内監督と運営法人(株)栃木県民球団の坂巻統括本部長が、今季の終了報告のため市長を表敬訪問しました。惜しくもリーグ連覇は逃したものの、東地区を制しクライマックスシリーズに進出したほか、リーグ新記録となる17連勝を達成するなど熱戦を繰り広げました。寺内監督は「昨年の東日本台風で被災した野球場が復旧したと聞いて安心した。来季は矢板で試合をして市民の方に勇気や希望を与えられたら」と話していました。



▲栃木ゴールデンブレーブス寺内 崇監督(左)から、選手全員のサイン入りユニフォームが贈呈されました。

11/21 (土) 地元の歴史にふれる

大槻地区で、文化財や史跡を巡るウォーキングイベント「歩き・み・ふれる歴史の道」が行われ41人が参加しました。これは、市内の文化財をより知ってもらおうと市・文化財愛護協会の共催により毎年行われているもので、今回は大槻地区で市指定文化財に指定されている石上神社のスギや松竹山のサイカチなどを巡りました。参加者からは「地元の史跡でも由緒などは詳しく知らなかった。歴史や地勢的な背景など、深く知るいいきっかけになった」との感想がありました。



11/24 (火) 自分たちにできることを

市きずな館で、泉中学校生徒から手作りマスクやフェイスシールドが市社会福祉協議会に寄贈されました。これは、例年参加している福祉まつりが新型コロナの影響で中止されたため、日頃お世話になっている地域の方に感謝の気持ちを伝えることを目的に、生徒の発案で行われたものです。生徒たちは「今年はコロナ禍で普通の学校生活は送れなかったが、手作りマスクやプランターの寄贈など、地域貢献活動を通して学ぶことも多かった。これからも人の役に立てるよう努力したい」と抱負を話してくれました。



▲11月20日には泉公民館にプランターが寄贈されました。
▲市社会福祉協議会に寄贈されたマスクなどは、老人給食のお弁当と一緒に1人暮らし高齢者などに届けられました。

11/27 (金) 明るい音色が響く

矢板駅西口で、毎年恒例のイルミネーションが点灯しました。駅から出てきた乗客の方たちは、感嘆の声を漏らすと、スマートフォンを取り出し思い思いに写真に収めていました。新型コロナの影響により点灯式は中止となりましたが、サブライズですみれ幼稚園の園児によるハンドベル演奏などが行われると、辺りは幻想的で和やかな雰囲気に包まれました。通りがかりの家族連れの方は「コロナの影響で暗い年だったが、イルミネーションを見て気持ちが明るくなった」と感想を話してくれました。



▲音楽に合わせて点滅するなどの趣向が凝らされたイルミネーションは、シンボルツリーを中心に約30,000個のLEDライトが飾られ、駅西口を明るく照らしました。

12/6 (日) 世界に1つのキャンドル

泉公民館で、オリジナルキャンドル作りが行われ、7組19人の親子が参加しました。これは子育て世代の交流と親子の絆を深めることを目的に、公民館が主催する「親子でnikoチャレ!」講座の1つとして行われたもので、このほかにもツリークライミングや英語を使ったゲームなど体験型の講座を年5回程度開催しています。参加した子どもたちは「お母さんと一緒に作って楽しかった。クリスマスの日に火をつけたキャンドルをサンタさんにも見てもらいたい」と笑顔で話してくれました。

